

巖 神 青

〔内 容〕

- ・ 護國神社清掃奉仕活動並びに第四回役員会
- ・ 事業援助金依頼並びに植樹生育状況調査活動
- ・ 建国記念の日奉祝大会助成活動
- ・ 青年神職研修会参加
- ・ 神政連国会議員懇談会
- ・ 東北六県神道青年会
- ・ 岩手県神社庁気仙支部
- ・ 各種東日本大震災慰霊祭
- ・ 第二十回神道政治連盟海外研修レポート
- ・ 役員インタビュー



護國神社清掃奉仕活動
並びに第四回役員会開催



一月十九日(火)、護國神社清掃奉仕活動並びに第四回役員会が開催された。役員会前恒例の護國神社清掃奉仕は、前日の大雪で参拝者に不便をかけている境内の除雪作業を行った。三十分ほどで拝殿前から鳥居まで除雪することができ、残りの時間で神社庁の駐車場の玄関回りを除雪することができた。神

社庁様にはオロナミンCの差し入れを賜り、雪かきで汗をかいた体に染みわたった。清掃奉仕後の役員会では各種協議が行われ、特に「憲法改正啓発活動の件」では活発な議論が交わされた。執行部より、庁長と日本会議の打ち合わせの結果一般向けの啓発活動はしない方針が示されたとの報告があり、以前提案のあったチラシ配りやティッシュ配りなどの活動に対する疑問が役員より提示され、内部的な活動に専念したほうが良いのではという意見で合意を得た。それを受け百田尚樹氏の啓発映画が完成したことから、その上映を各支部へと呼びかける活動をしてはどうかとの提案がなされ、決議された。また、建国記念の日奉祝活動では六名の派遣要請があるため、各会員には何卒ご協力を賜るようお願い申し上げます。

げるとの会長の挨拶があった。その他にも、藤原常任委員による全国神青協の活動についての報告や、東日本大震災の慰霊祭について、さらには今年当県が担当する六県親睦事業についても活発な意見交換が行われ、新年最初の役員会は大変意義深いものとなった。



懇親会は菜園の「もつ擴」でおこなわれ、コラーゲンたっぷりのもつ鍋やもつ炒めに舌鼓を打ちつつ、お互いの奉仕神社の正月の様子などを報告しあうとともに憲法改正をはじめ天下国家を語り合い、あつという間の三時間だった。

事業援助金依頼並びに植樹生育状況調査活動



二月九日(火)、菅原会長、菅村副会長、小野寺事務局長の三名にて、事業援助金依頼と全国神青協植樹の生育状況調査の為、気仙ヶ上閉伊方面を巡回した。

今回は気仙支部、上閉伊郡支部の七社にご依頼と調査にお伺いさせて頂いたところ、お忙しい中にも関わらず温かくお迎え頂き、当会の活動を始め、今年のお正月の様子や近況の報告も兼ねて親子のご挨拶をさせて頂いた。調査については、植樹から一年三カ月が経過し、順調に

生育しているものもあれば、陽あたりや風あたり獣の食害により、葉の変色など樹勢の弱いもの、残念ながら枯れてしまったものも見受けられた。

今後は各宮司様に御相談の上、植え替えや植え直し等の対策を講じる事を検討しながら、引き続き生育状況の調査を進めて参りたいと思う。また、この植樹の生育調査については東北六県神青協を通し、全国神青協へご報告をさせて頂きますのでご承知置き願います。

建国記念の日奉祝大会 助勢活動

二月十一日、建国記念の日奉祝大会の助勢活動を、八名の会員の参加のもと行った。八時四十五分に会場に集合し、会場内への荷物搬入作業、会場入口への幟旗設置作業、壇上の椅子などの設営・

式典から講演会への壇上入替作業、頒布品準備作業、講師先生送迎などの活動を行った。



十一時五十分頃から撤収作業をし、十二時三十分頃現地解散となった。



平成二十八年度青年神職
研修会参加

二月二十六日、岩手県神社庁にて平成二十八年度青年神職研修会が開催され、菅原会長以下十八名が参加した。一般神職からも五名の参加があり、講義内容への関心の高さを感じさせた。



講義では、現憲法立憲までの歴史的背景を踏まえ、憲法改正運動の重要性について

ご教授頂いた。現憲法は外国人により作成され、諸外国にとつて都合の良いものとなっている。今一度現憲法を見直して改正してゆくことが、国民の安心安全につながり、さらには日本人本来の伝統や風習を取り戻すきっかけとなるであろう。

この研修を機に、神職としての立場から、より良い日本の未来の為に何ができるかを考え、これからも研鑽を積み重ね、社会奉仕活動につとめてゆきたいと思う。

また、研修会終了後十八時



より懇親会が盛岡市内ホテルエースにて執り行われ、懇親が深められた。

神政連国会議員懇談会東
日本大震災物故者慰霊祭

三月五日、六日の二日間に亘り、菅原会長と藤原常任委員の兩名が宮城県名取市閑上において斎行された東日本大震災物故者慰霊祭へ岩手県本部の青年隊として助勢活動を行った。

前日より神政連中央本部、神社本庁職員の皆様、東北六県の神政連の担当者が参集し、詳細の打ち合わせ、玉串等の諸準備を行い、夜には長曾我部会長を始めとする中央本部四役の方々と同席をさせて頂き、盛大に懇親会が催された。

当日は、国会議員懇談会中曽根弘文会長代行を始め懇談会の先生方、神社本庁田中恆清総長並びに神社関係

者、そして多くの御遺族の皆様、被災地市町村関係議員の皆様が御参列なされ、宮城県護國神社田中光彦宮司を斎主として厳粛に斎行された。祭儀終了後は国会議員懇談会との連絡会が催され、地元各界代表より国会議員の先生方へ要望等が提示された。神社界からも福島県神社庁丹治正博庁長より神社界として福島県を中心とした今後の復興事業に対する要望が伝えられた。



東北六県神道青年会 東日本大震災物故者慰霊祭

三月十一日、例年東北被災

県、岩手、宮城、福島三県の持ち回りで開催されている東北六県神道青年協議会主催の「東日本大震災」物故者慰霊祭が宮城県石巻市で行われ、当県からも九名が参加し、藤原議長が齋主、菅原会長が祭員として奉仕した。

石巻の町並みは、真新しい施設や工場、市場などがたくさん増えてインフラも震災当初に比べてはだいぶ整ったように伺える。しかし、被災者の心には「あの時の記憶」として震災後遺症が根深く残っているように見え、「復興へ向けて全力で」というのは被災者に対し少し重荷ではないかとも感じた。

この日の石巻はいつにも増して交通量が多く、渋滞も各所で見受けられた。我々神社界に留まらず色々

な団体が、様々な形で慰霊や追悼を行っていたようである。神職という立場で「祈る」だけでなく、「祈り」「続ける」ことを、何年経とうとも気持ち新たにやっていきたい。



気仙支部 東日本大震災慰霊祭助勢

東日本大震災発災五年となる今年。気仙支部主催による東日本大震災物故者慰霊

祭助勢活動を行った。

当日、午前五時半に駒形神社を出発し斎場に八時着。到着後、斎場設営・清塩奉製等の活動をし。慰霊祭祭儀では俗人を奉仕した。

稲田副庁長を始め、支部神職、一般参列者、約五十名が参列し快晴の中無事斎行された。風は冷たかったが参列者一同、心を一つに慰霊の念を捧げた。



祭儀後の挨拶の中で、当地

では八メートルの津波が襲

い大きな被害があったとお話し頂いた。被災五年で復興の途中で有るものの近くでは今でも工事が進められており、その様な状況の中で祭儀が行われた。

地元の方々からは感謝の声も多く聞かれ、今後復興へ更に会員力を合わせ尽力しなければと助成者一同気持ちを新たにしました。

第二十回神道政治連盟海外研修レポート

多田宜史

二月四日〜七日の日程にて、神道政治連盟主催の第二十回海外研修並びに第十四回時局対策連絡会議〜フィリピン共和国・戦没者慰霊祭が、团长である内田文博神道政治連盟幹事長始め、神道政治連盟会長長曾我部延昭様、神道政治連盟国会議員懇談会事務局次長・衆議院議員

城内実様のご参加の下、総勢五十名にて開催された。研修後レポートを課せられたので、提出したものを転載する。

『海外研修に参加して』

「慰霊」という言葉は便利だ、と思う。それは大震災で我が子を失った母親を目前にして、かける言葉が見つからず、思わず「こ愁傷様です」と口にしてしまう事に似ている。今回の海外研修に参加するに当たり、私の心に去来するものはまさに捉え所のない漠然とした「慰霊」であった。この研修に先立ち、天皇皇后両陛下が行幸啓なされたが、果たして御霊の御前に献花し祈るその心中は、如何様であったことだろう。それを追体験することが、私の今回の研修の大きな目的の一つであった。

「遠い異国の地で貴い命を失った事に対する同情や謝罪」であったり、「現在の平和な世界の基となった事への感謝」であったり、「非戦への誓い」、「功績の賞賛」、「神道によって祭祀をする事による奉仕並びに饗応」等々、「慰霊」という言葉は

様々な意味を内包する。



カリラヤ日本人戦没者慰霊園

それが今回の研修日程を過ごしていく内に、当初の漠然としたものから次第に具体的なものになっていくのを感じた。日本大使館での話や、デカストロ教授の講話、衆議院議員城内実様のお話、バスガイドの説明、そして各種慰霊施設での慰霊行事では、過去複数国に支配されたフィリピンの複雑な歴史並びに国民心情・イスラム教徒との宗教問題・そして現在の中国との領有権問題など、現地で学ぶからこそ肌で感じることが出来るほどに理解

が深まった。特にマバラカットで行われた戦没者慰霊祭の斎主様の祝詞は感動的で、思わず涙を誘うものだった。



マバラカット飛行場
神風特攻隊の碑前での慰霊祭

結局の所、「慰霊」とは「御霊が喜ぶこと」をしてあげることではなかるうか。では私は御英霊に喜んでいただくために具体的に何をすべきだろう。私は「忘れないこと」ではないかと思う。大使からの「フィリピン人は戦中の事を許しません、しかし忘れません、と言っている。

日本人こそ絶対に忘れてはならない。」というお話や、城内先生の「隣国と違い我が国は戦中のことを歪曲・美化する必要はない。事実をありのままに述べればよいのだ。」というお話は、そのことを物語っているのではなからうか。実際私はこの研修に参加することが決まるまで、恥ずかしながらフィリピンでの戦争についてほとんど知識を持ち合わせていなかった。この貴重な経験を広めていくこと、それこそが「慰霊」なのだ。



新 役 員 インタビュー

【項目】①名前②役職③所属支部④奉務神社⑤独身⑥既婚⑦趣味⑧好きな芸能人やアーティスト⑨休日の過ごし方⑩神明奉仕にあたって心がけていること⑪影響を受けた本⑫座右の銘⑬あなたにとってズバリ神道とは？⑭青年会に期待すること⑮こんな活動がしたい！⑯役職就任にあたり抱負を一言

▼①菅原史穂子(すがわらしほこ)②常任委員③宮古市下閉伊郡支部④青猿神社⑤既婚⑥ドライブ、動物と戯れる⑦ジョニー・デップ⑧愛犬の散歩⑨心を込めて接すること⑩人生はかなりピクニック⑪笑門来福⑫大和心⑬高め合う力⑭県内各

地での交流⑮支部の声をどんどん上げて円滑に充実した活動をして参ります。

▼①菅原しずか(すがわらしずか)②地区委員、広報委員③北上市和賀郡支部④駒形神社⑤独身⑥花を育てる⑦bond⑧書店や園芸店、植物園をめぐる⑨気持ちをおろそかにしない⑩こころを楽しく生きる⑪明日死ぬが如く生きよ、永遠に生きるが如く学べ(マハトマ・ガンジ)⑫祭祀を通じ自然と人とのつながりを深め、また感謝する⑬同年代の会員の参加⑭県外神社の視察、参拝⑮若輩者ではございますが、今後の青年会活動の充実に貢献できるよう頑張りたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

▼①駒形充聡(こまがたみつとし)②地区委員・広報委員③西磐井支部④月山神社⑤既婚・息子三人⑥ツリーリング⑦水木しげる・吉田類

⑧バイクで遠出する⑨訪れる参拝者が気持ちよくお参りできるような心がけている⑩『古代出雲』⑪酒は飲んで⑫飲まれるな⑬先祖を大事にする⑭まだ参加したことがない会員が、参加してみたくなるような事業⑮一生懸命頑張ります

▼①榊澤彰(さかさきざわあきら)②地区委員③東磐井支部④熊野神社⑤独身⑥ドライブ⑦堀北真希とか⑧当てのないドライブ⑨整理整頓⑩有職故実⑪若いときの苦労は買ってでもせよ⑫日本人としての精神、根源⑬斯界発展の助力⑭全会員との意見交換⑮やれることは一生懸命頑張らせて頂きます

※役員の皆様にはインタビューの提出にご協力をお願いします！

【編集後記】

今年(2016年)は四年に一度の閏年。皆様は得した一日をどう過ごされましたか？私(2016年)と言えば人生初の牡蠣小屋を体験しました。スーパードではお目にかかれたい大ぶりのぷりぷりした牡蠣を、お腹いっぱいになるまで食べました。四十個くらいは食べたでしょうか。大満足の日でした。

その牡蠣はもちろん三陸産です。三月十一日で震災から丸五年が経過しました。当時は先の見えない毎日(2011年)を過ごしていましたが、美味しい牡蠣を始め、復興は着実に進んでいます。盛り土も目途が立ち、いよいよ本格的な復興の時期に差し掛かりました。この歩みを更に加速していきますよう祈念申し上げます(宜)

発行 岩手県神道青年会
住所 一関市釣山一九 八幡神社社務所内
電話・FAX 〇一九一―三三―二九〇六